



主な内容

「明治日本の産業革命遺産と萩」構成資産(4) 恵美須ヶ鼻造船所跡 P4
夢道人 NHK山口アナウンサー 北村紀一郎(山口市) P6
萩ゆかりの施設 宇野港(岡山県) 檜垣直右 P7
山口萩ビール株式会社 大中隆義(萩市) P8
須佐おもてなし協会会長 山本隆志(萩市) P9

相島は火山活動の隆起によってできた島で、段々畑で水はけが良い条件を生かして、約40年前からスイカを栽培。萩市街から北に14km沖合に浮かぶ島で、萩港から定期船で40分。山口県内有数のスイカ産地として、約3万玉を出荷しています。

相島の集落やスイカ畑は、船着場から長く細い急峻な坂を登った台地上にあります。亜熱帯風の緑陰を取材で借りたスクーターで疾走する風が心地よい。

第130号 2016年7月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

火山の大地の恵み

萩相島スイカ

初出荷式(相島)



長州ファイブ「工学の父」山尾庸三 遺族が遺品1000点を萩市に寄贈

「長州ファイブ」の一人、山尾庸三の遺族から約1000点の資料が萩博物館に寄贈されました。スコットランドの造船所で働きながら夜間学校に通っていた時代のノコギリやカンナ、新発見の書簡など貴重な品で、来年秋に「山尾庸三没後100年記念企画展」として発表する予定です。



山尾庸三
(1837 - 1917)

◆山尾庸三

吉敷郡二高村（現山口市）出身。1863年に、5人でイギリスに密航留学し、スコットランド・グラスゴーで造船技術を学び1868年に帰国。近代工業の確立に力を入れ、明治政府で工部省の設立や工学寮（現・東京大学工学部）の

設立に尽力し、工部省の長官である工部卿を務めるなど「工学の父」と呼ばれています。また盲啞学校の設立にも尽力しました。

◆寄贈品

グラスゴーのネピア造船所で使っていたノコギリとカンナは、英国から持ち帰った長州ファイブ初の器物資料（写真）。庸三に宛てた木戸孝允、伊藤博文、山県有朋らの書簡、肖像写真など約1000点上ります。帰国後にまとめた「盲啞学校設置建白書」もあり、日本の先駆けになったことを証明する資料です。

◆寄贈者は

昨年93歳で亡くなった庸三の孫信一さん（元日英文化クラブ会長）で、代理人はフランス在住で信一さんの次女典子さん（60歳）。典子さんからは「父は生前、庸三の偉業を広めるため多くの講演を行

◆萩博物館の道迫真吾主任学芸員は

「歴史的価値が極めて高い資料群、手紙の大半が未発表で、山尾の人的関係を解明する上で重要な資料。山尾を世に広める使命感を感じています」

◆「山尾庸三伝・明治の工業立国の父」（兼清正徳著、2003年）には

「お国（長州藩）のために、生きた器械」になりたいと考えていた庸三は、ネピア造船所の徒弟・見習い工となることができた。昼間は見習い工として造船所で工具を使って技術を学んだ。夜間はアンダーソンズ・カレッジの夜間学校に通った。その当時使用していたノコギリとカンナを帰国の時に持ち帰り、現在山尾家に保存されている。技術者庸三の記念品である。（中略）

■長州ファイブ

幕末の文久3年（1863）、長州藩から英国ロンドンに5人が密航留学。山尾・井上のほか、伊藤博文（初代総理大臣）、井上馨（外務大臣）、遠藤謹助（造幣局長）。

長州ファイブ「鉄道の父」井上勝 今秋 萩駅前 に銅像建立！

長州ファイブの一人、井上勝は、鉱山学や鉄道の実業を学び、帰国後、鉄道頭となり、日本初の新橋・横浜間の鉄道開業や、日本人技術者だけによる逢坂山トンネルの開通を成し遂げます。明治23年（1890）に鉄道庁長官となりますが、ロンドンで鉄道を視察中に客死。生涯を鉄道に捧げ、「鉄道の父」と称せられるなど、鉄道事業による日本の近代化に尽くしました。

東京駅のシンボル 井上勝像

大正3年（1914）、東京駅の開業に合わせて、井上勝の初代の銅像が建立されました。戦時中の昭和19年に金属供出で撤去され



井上勝
(1843-1910)



東京駅前にあった頃の銅像

ますが、昭和34年に2代目が「東洋のロダン」と呼ばれた彫刻家朝倉文夫の手により建立。何度か位置を変えながら、長らく東京駅を見守っていました。皆さんも、東京駅の赤レンガを背に立つコート姿の井上勝像を覚えていらつしやると思います（写真）。

現在は、東京駅復元工事や、丸の内駅前広場の整備工事のため撤去されており、その姿を見ることができませんが、整備工事完成後の平成29年春ごろには再設置される予定とのことです。

寄付金を募集中！

萩まちじゅう博物館銅像建立委員会（会長・野村萩市長）では、10月14日の鉄道の日に完成予定の、井上勝の銅像寄付金を募集しています。なお、5万円以上の寄付者の名前は芳名板に掲載します（団体は団体名のみ）。

募集期間 9月15日まで（予定）
申込方法 ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」から申し込み
問い合わせ

萩市まちじゅう博物館推進課
(0838・255・3290)

明治日本の産業革命遺産と萩

構成資産の紹介（4）恵美須ヶ鼻造船所跡

構成資産としての価値

恵美須ヶ鼻造船所跡は、日本における造船近代化の初期の様相を伝える貴重な遺跡であり、また、ロシア式の軍艦建造およびオランダ式の軍艦建造の遺構が共存する唯一の事例でもある。在来技術に洋式技術を融合させて軍艦が建造

されたという意味で、造船近代化の過渡的段階を示している。

江戸時代、船の建造は厳しく制限されていた。それは、徳川幕府が寛永12年（1635）、諸藩の水軍力を弱体化させるため、500石積み以上の大船の建造を禁止したからである。ところが幕府は、嘉永6年（1853）のペ

恵美須ヶ鼻造船所跡の当時から残る堤防



リー来航によって、従来の日本の船では欧米列強の軍艦に対抗できないことを認識し、大船建造の禁止令を撤廃する。これによって、幕府はもとより、水戸藩や薩摩藩、佐賀藩、長州藩（萩藩）などの有力な諸藩は、自力で洋式軍艦の建造に取り組むことになる。しかしながら、幕末の日本では、洋式軍艦のうち、帆船であれば在来の技術でも対応が可能であったが、蒸気船の場合は、機械工業の基盤がなかったためほとんど対応不可能であった。幕府や佐賀藩、薩摩藩

は蒸気船の建造も試みたが、わずかな蘭書の知識による自力での建造が困難であることを悟ると、欧米列強からの輸入に頼らざるを得なくなった。わが国では、この試行錯誤の経験が踏まえて、外国機械や外国人技術者が積極的に導入され、わずか50年間で急速に造船の近代化が達成されたのである。

長州藩初の洋式軍艦 丙辰丸の建造

長州藩は、安政元年（1854）2月に幕府から大船の建造を要請された。しかし長州藩は、相次ぐ風水害に加え、相州警衛（相模国側の江戸湾防備）などにより出費が増加して極度の財政難に陥っていたため、消極的な対応しかできなかった。こうした状況の長州藩を動かしたのは、藩士木戸孝允（桂小五郎）である。木戸は、浦賀奉行所と力の中島三郎助に師事し、洋式造船技術を学んだ。中島は、安政元年5月に国産初の洋式帆走軍艦鳳凰丸を完成させていた。

安政2年（1855）6月、大船製造御用の藩命を受けた萩の御手大工藤井勝之進が浦賀へ派遣された。木戸は藤井を中島に紹介し、ともに軍艦建造の技術を学んだ。中島は木戸に対し、幕府が伊豆半島の戸田村（現静岡県沼津市）で、ヘダ号の設計図をもとに同型の船を建造中であることから、現地へ行くように勧めるとともに、これを機に長州藩でも同型の船を造ることが得策であると教示した。ヘダ号は、ロシア使節プチャーチンの乗船ディアナ号が沈没したため、急ぎよ、代船として建造されたスクナー（君沢型）で、船名は戸田という地名に由来する。まもなく木戸は藩に対し、戸田の船大工を招聘して軍艦を建造すべきであると意見する。同年11月、長州藩は木戸に対し、戸田の造船所を視察するよう命じた。安政3年（1856）1月、藩命により船大工棟梁の尾崎小右衛門が江戸へ向けて出発する。尾崎は、2月に江戸に到着するや情報を収集し、幕府若年寄本多忠徳の家臣で船大工棟梁の高崎伝蔵、および船大工藤吉がスクナー建造の功労者であることをつきとめる。尾崎は、木戸の師である斎藤弥九郎が高崎と懇意であることなどから接触を果たし、品川沖に停泊中のスクナーを密かに見学する機会を得て江戸の藩邸に報告した。これを聞いた当役（家老）の浦

朝負も、スクナーを視察した。藩主毛利敬親は、浦からスクナーの堅牢な構造を聞き、同型の船の建造を決定した。さらに藩主は、本多忠徳に高崎の借用を依頼して許可を得るとともに、尾崎に「スクナー船製造御用掛」を命じた。尾崎は、安政3年3月に江戸を出立するまでの間に高崎伝蔵と相談し、建造する船をスクナーとバッテリーの2種類とした。招聘する船大工は、高崎らとともにスクナーの建造に携わった戸田の金右衛門・又三郎の2名とした。同年4月、尾崎は高崎伝蔵らを伴い萩に帰着する。尾崎らは近海を視察し、小畑浦の恵美須ヶ鼻造船所の設置場所を選んだ。長州藩は大検使役の桂与一右衛門に西洋船製造御用懸りを命じ、造船所内の会所に日動させ、製造方として造船事務の一切を担当させた。造船所の敷地は、藩士榎本伊豆の給領地および今浦新地で、船の製造中、藩が借り上げるようになった。なお今浦新地は、安政2年完成の姥倉運河を開削した際に出土した土砂による埋立地で、外縁の防波堤も運河の開削時に出た岩石で築かれたものである。同年5月、バッテリーの建造が開始され、6月末に完成した。全長約8mの帆船であった。

世界遺産登録から1年！

世界遺産まで 道路案内標識

大型の看板で分かりやすく

昨年7月8日に世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」。萩市には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾と5つの資産があります。資産までのルートを示す大型の道路案内標識が、市内



まちなみの景観に配慮
(高さ・色)したユニクロ
の看板より低い道路標識



萩警察署前交差点

の37カ所に設置され、目的地まで一目で分かるようになりました。標識は、鹿児島県など7県の統一デザインで、国土交通省(国道191号等)と山口県(国道262号・315号、県道)が設置。7県に先駆けて、萩市に設置されました。

同窓会等へ 貸し出します

萩の観光プロモーションDVD

世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の萩市内の5資産や、歴史や文化、伝統など、萩市内の名所などを紹介する観光プロモーション映像「『萩』という名の世界遺産」守り、受け継ぐ「まち」を制作しました。

この映像は、萩市観光協会のホームページで視聴できるほか、DVDの貸し出しも行いますので、同窓会等での上映などに、ぜひ「

活用ください。

■種類 13分版(日本語、英語、ナレーションと字幕) 3分版(日本語、英語、韓国語、中国語(簡体字、繁体字)。字幕のみ)

■申し込み

萩市観光課

(0838・25・3139)

▽萩市観光協会ホームページ

(<http://hagishi.com/>)

同年6月、長州藩は幕府に提出するスクーナー建造の原案を作成し、藩内での協議を経て9月に幕府に提出し、10月、幕府から正式に許可された。スクーナーの建造は10月上旬に開始されたとみられる。さらに、スクーナーの建造で残った木材を利用してコトトルも製造することとなった。12月、スクーナーとコトトルが完成し、進水式が挙行された。スクーナーは全長約24・5m、排水量47トン、コトトルは全長約6mであった。

安政4年(1857)1月、スクーナーに帆檣が建てられ、内装・外装ともすべての装備が整い、2月、藩主観覧のもと造船所近海で試運転が行われた。スクーナーを起工・完成した安政3年の干支にちなみ、丙辰丸と命名された。5月には尾崎小右衛門が丙辰丸の船

長に就任し、試運転が行われた。以後、丙辰丸は、藩の主力艦として海軍の練習と国産交易の任務を果たす。

造船所は同年8月に閉鎖され、9月には産物方の管理下に入った。なお、丙辰丸に用いられた船釘や碇は、大板山たたら製鉄遺跡で生産された鉄が使用されたことが判明している。

二隻目の洋式軍艦 庚申丸の建造

その後、長州藩は、軍制改革を進めるなかで、海軍においては洋式軍艦の整備を至急の課題とした。安政5年(1858)7月、藩士山田亦介を軍制改革の総責任者として登用するとともに、軍艦製造御用をも任せて、2隻目の洋式軍艦の建造に取り組むこととなる。

新艦の設計は、浦賀で中島三郎助に学んだ後、長崎でコトトル建造を学んだ藤井勝之進が担当した。同年10月、長州藩は尾崎小右衛門を再び軍艦製造御用に任命した。

山田亦介はその間の同年8月、閉鎖されていた恵美須ヶ鼻造船所の引き渡しを受け、安政6年(1859)1月以降、木材の確保に取り掛かった。

同年6月、長州藩は幕府に大艦製造を願い出て、7月に許可を得た。新艦は6月から建造が開始さ

れたとみられ、7月に船台への竜骨の固定が終わり、8月には肋骨の間を詰め、外板を張る作業を行った。この時期、常時160〜170名程度の諸職人が働いていた。

また山田亦介は、尾崎小右衛門と相談した結果、他藩からの技術指導者の招聘が必要と判断し、藤井勝之進にその手配を命じている。藤井は、長崎で知己となった福岡藩の船大工本島次郎左衛門らの内諾を取り付け、長崎の船大工棟梁駒次郎とその弟子らの招致にも成功した。こうした経緯から、庚申丸の建造には長崎経由でオランダ式の技術が用いられた。

同年12月、長州藩は藤井百合吉を検使役に任じ、船大工らの人員も増員した。

万延元年(1860)3月、新艦の内部工事が終了する。5月に進水式が挙行され、この年の干支にちなんで庚申丸と命名された。8月、建檣式および船霊納めの儀式が行われ、起工から約1年あまりで完成した。庚申丸は全長約43・6m、船種はバークで、おもに練習艦として使用された。総工費は丙辰丸の約5倍を要したといわれる。

長州藩での洋式軍艦建造は以上2隻の帆船で途絶え、以後はおもにイギリスから蒸気船を輸入することになる。



軍艦丙辰丸(山口県文書館蔵)

きたむら
北村 紀一郎さん

(本籍萩市、山口市在住、45歳)

胸を張って

「萩がふるさと」と言えます

世界遺産と大河ドラマを
伝えて

私が、3年前に初任地の山口に戻ってきて、最も印象に残っている出来事は、去年(平成27年)、松下村塾など萩の構成資産が世界遺産に登録されたことと、萩を主な舞台にした大河ドラマ「花燃ゆ」が放送されたことです。

私たちは、地元の放送局として、2年前から継続して、「花燃ゆ」に関するイベントや番組をお送りしてきました。

地元が大河ドラマの舞台になるという絶好の機会を生かして、私は、必死に歴史を勉強し直し、夕方ニュース番組「情報維新!やまぐち」(総合テレビ 月々金

午後6時10分〜7時、山口県内向け)の中で、ドラマに関する様々な情報をお伝えする「花燃ゆ維新塾」というコーナーを、他のアナウンサーとともに一年以上担当させてもらいました。

そうしたさまざまな番組やイベントを通して、主演の井上真央さんや高杉晋作役の高良健吾さんなど、多くの俳優の方たちと仕事をさせていただきましたが、私が最もうれしかったのは、地元萩の方々と一緒に番組を作り上げる事ができたことです。

特に、萩博物館主任学芸員の道迫真吾さんには、「花燃ゆ維新塾」の立ち上げから、知恵袋としてお世話になり、最終回は、スタジオに出演して、「花燃ゆ」が山口県に残した意義について、熱く語っていただきました。

また、道迫さんと、萩市内にあるジャズ喫茶のマスター、増本義隆さんにご出演いただき、おとし(平成26年)8月に、およそ6時間にわたって全国放送した「山口発 ラジオ深夜便」維新のふるさと・萩を愛して」も、萩の魅力満載でお送りでき、個人的に思い出深い仕事です。

松陰神社の上田俊成宮司や松陰神社「至誠館」前館長の近藤隆彦さんなど萩のみなさんに、「花燃ゆ」や世界遺産関連の仕事で大変お世話になりました。

父から受け継いだ
「ふるさと萩」

こうした仕事でできた背景には、亡き父、知紀の存在があります。

父は、生粋の萩出身者(昭和34年萩高卒)で、実は、14年前、この「ズームアップ」に寄稿しています。新聞社を退職した後、平成8年に故郷の萩に戻って、郷土史家として大好きな歴史の研究をしていました。前述の道迫さんや近藤さんは、同じ歴史の研究を通じて、父と親交のあった方々で、まさに、親子二代にわたつての長いお付き合いさせていただいています。

私の初任地時代の夢は、父を取材して、番組を作ることでしたが、果たせませんでした。しかし、10

年以上の時を経て、私は、再び山口に戻り、いわば「父の遺産」ともいえる萩の方々の力をお借りして、仕事をさせていただいています。

今は、胸を張って、「萩がふるさと」と言えます。今回、この「ズームアップ」への寄稿のお話をいただいたことは、地元萩のみなさんに少しは認めていただいたような気がします。

これからも、萩ゆかりのアナウンサーとして、末長く応援いただければ幸いです!

なお、今月(7月)下旬には、父の十三回忌を迎えます。このタイミングで、この文章を書かせていただいたことに、不思議な縁を感じます。

プロフィール

昭和46(1971)年1月 愛媛県松山市生まれ。兵庫県姫路市育ち。
父、知紀(平成16年7月死去)が萩出身で本籍は萩市。実家が萩市江向にある。

平成6(1994)年NHK入局。
山口、長野、仙台、岡山、大阪、奈良の各放送局を経て、平成25年、15年ぶりに、初任地・山口に戻る。

山口県内向けのニュースなどを担当



歴史について講演する北村さんの亡き父、知紀さん

熊本地震被災者の皆さまに 謹んでお見舞い申し上げます

松陰の盟友、宮部鼎蔵（ていぞう）のふるさと御船町も被災
熊本地震へ支援を行いました

4月14日夜と16日未明に、熊本地方を震源とする、震度7の地震を観測。熊本市や益城町をはじめ、近隣の市町で大きな被害が発生し、今もなお多くの方が避難生活強いながらも復旧作業に追われています。

萩市でも、地震発生直後の4月16日から6日間、消防職員を南阿蘇村に派遣、行方不明者の捜索や被災者等の救急活動を実施。水道職員は4月16日から9日間、熊本市でタンク車による給水活動による支援、保健師1人も5月27日から7日間、南阿蘇村で相談や家庭訪問なども行いました。

岡山県「宇野港」開港の立役者は 萩出身の檜垣直右

本州と四国、瀬戸内海の島々をつなぐフェリーが多数行き来する宇野港。「瀬戸内芸術祭2016」への玄関口となる宇野港（玉名市）の築港を推進したのは、萩出身の岡山県知事・檜垣直右でした。

児島湾（岡山市）干拓を推進



檜垣直右の銅像（玉名市）

した萩出身の藤田伝三郎など、岡山県と萩市とは深いつながりがあります。

宇野港は明治42年（1909）完成、翌年、宇高線と宇高航路が開通しました。昭和5年（1930）には宇野港は岡山県最初の外貨商港として開港指定を受け、玉野市の発展の礎となりました。

宇野港のメモリアルパークに建つ檜垣直右の銅像は、昭和55年（1980）卓越した先見性と英断を顕彰して、宇野港開港50年と市制40年を記念して建立されました。

吉田松陰の盟友、宮部鼎蔵（ていぞう）のふるさとである熊本県御船町も甚大な被害を受けました。御船町にも、4月30日から約2カ月間、事務職員を派遣。被災者の生活再建支援に関する問い合わせや相談対応などにあたりました。

このほか、いち早く4月15日から5月末まで義援金を受付。6月には熊本県（298万5954円）と熊本県御船町（100万円）にお届けしました。

平成25年7月の萩市東部集中豪雨災害では、萩市も多くの自治体の応援やボランティアによる支援をいただき、復旧活動の助け、そして、復興への励みとなりました。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りします。



歌碑など被害を受けた「鼎春園」
（御船町）。公園中央には高さ5mの宮部鼎蔵の顕彰碑、右が銅像

学校だよりの

さよなら、円型校舎。 萩光塩学院、解体前に見学会

萩光塩学院の円型校舎が耐震化に伴い解体されることが決まり、5月2日・7日、お別れ見学会が開かれました。

校舎は1955年（昭和30年）に完成し延べ床面積1642㎡の3階建て、直径25mの円型校舎は中央にらせん状の階段があり、教室が扇型に配置された珍しい構造です。62年間にわたり、学院のシンボルとして、また市民にもなじみの景観となっていました。

見学会は同窓生の強い要望で実現し、不用になった学校の備品と光塩グッズの販売などもあり、400人以上の市民や卒業生が昔を懐かしんでいました。



中村柔道校長

中村柔道校長は「私自身、幼稚園から小学校までをこの学院で過ごし、思い出のある校舎の解体を決断することに大きな寂しさを覚えました。しかし、光塩が永続して発展するために、大きな変革を決断し、改善を図ることが重要です。」と語りました。

なお、新校舎は7月下旬に着工し、来年3月に完成する予定です。

沿革	年	出来事
1890	明治23年	修善講設置
1903	明治36年	萩婦人会修善女学校
1939	昭和14年	修善高等家政女学校
1943	昭和18年	修善高等女学校と改称
1948	昭和23年	萩女子学園と改称
1952	昭和27年	合併により萩光塩学院
1955	昭和30年	東田町毛利氏別邸校地内に円型校舎が落成



メルセス会や多くの姉妹校の協力によって建てられた円型校舎

「ふるさと寄付」お礼の品 人気No. 1

山口萩ビール株式会社

代表取締役 **大中隆義** さん (萩商業高校昭和60年卒、50歳)



チオンマゲビール3本セット
インターネット価格1,000円(税別)

ご購入は「チオンマゲビール ショッピングサイト」から
萩市土原 608-1 ☎ 0838・25・5700
★2名様にプレゼント

昨年度、約1億3800万円もの金額が萩市に寄せられた「ふるさと寄付(納税)」。121品目ある返礼品の中で一番人気の品が、山口萩ビール株式会社(株)が醸造する「チオンマゲビール」です。同社並びに、株式会社岸田商会の代表取締役である大中隆義さんにお話を伺いました。

岸田商会の新事業として

チオンマゲビールは、私が30歳の時に会社を設立し、今年で20年目を迎えます。家業である岸田商会を継ぐため、6年間務めたアサヒビール飲料を退職し、帰郷した2年後のことでした。当時、ビール製造の規制緩和によって、各地に小規模のビールメーカーが誕生し、地ビールブームが起きていました。私も地ビール造りに興味が

あり、新潟県にある全国第一号の醸造所を視察したところ、普段飲んでいるビールが薄く感じるほどのおいしさに衝撃を受けたのです。萩で地ビールを造れば、観光客を呼び込むことができ、地元の人にもこのおいしさを知ってもらえることができる。さらには、酒類の卸売も行っている岸田商会の販路も生かせる新たなビジネスチャンスだと思いい、事業を立ち上げたのでした。

飲みやすい地ビールを

醸造を始めるにあたって、私は地ビールの先進国であるアメリカへ渡り、2カ月間、現地の醸造所でビール造りについて学び、さまざまなビールを試しました。日本の大手ビールメーカーが製造しているのは、キレや飲みやすさを重

視した下面発酵タイプの「ピルスナー」という種類なのですが、地ビールでは、香りやコクのある上面発酵タイプのもが多く、醸造方法の違いや原料の種類によって、味や香り、色が異なる個性豊かなビールに仕上がります。

弊社では、フルーティーな香りが特徴で、比較的苦みが少なく、地ビール初心者でも飲みやすい「ペールエール」、「アルト」、「ワイート」の3種類を醸造。同じ上面発酵タイプではありますが、原料である麦、ホップ、酵母の種類や配合は異なり、それぞれ個性があります。

昨年には、飲食店向けに醸造していた「ピルスナー」の一般販売も始めました。「萩」という土地が持つブランド力や、商品名とパッケージの面白さ、そして、「飲みやすくおいしい」といった口コミなどにより、観光客を中心に大好評いただいています。

再び到来した地ビールブーム

チオンマゲビールが、「ふるさと寄付」の返礼品として一番人気となっている理由は不明ですが、ここ数年、売り上げは右肩上がりです。近年、都市部では、国内外の地ビールを集めた専門店やイベントが増えており、再ブームが到来しています。弊社

もお声かけいただくことが増えており、今後も、その需要はますます高まるといえます。加えて、台湾やオーストラリアにも輸出しており、今夏には、アメリカでも販売が始まる見込みです。年間40〜50キロリットルのビールを醸造していますが、新たに瓶詰め機械やタンクを増設し、更に生産力を向上させていく予定です。

また、アメリカでは既に主流となつていますが、最近国内の大手ビールメーカーでも苦みの強いビールが増え、人気が高まっています。実は、チオンマゲビールも味覚や好みの変化に合わせて、味のリニューアルをしていますが、今後は、新たに苦みが強いタイプのビールも開発し、販売していきたいと思つています。

理想は「醸造所の煙突が見える範囲」

ビールは、温度変化や直射日光振動を受けることによって味が変わってしまいます。都市部での人気が高まる一方で、本来は鮮度の良い、醸造所の煙突が見える範囲で販売することが理想であり、それが一番おいしい飲み方だと思っています。

ですので、ぜひ、萩に飲みに来ていただきたいですし、地元の方たちにも飲んでいただけたら嬉しいです。

須佐湾遊覧船・須佐男命みこといか

一般社団法人 須佐おもてなし協会会長

山本隆志たかしさん (67歳)



須佐地域の観光振興に大きな役割を果たしてきた須佐観光協会が、今年1月、「須佐おもてなし協会」として法人化し、新たなスタートを切りました。会長の山本隆志さんにお話を伺いました。

結婚を機に、須佐へ

私は、徳島県三好市で生まれ育ち、高校卒業後は、大阪で印刷加

工業の会社を設立。27歳の時、須佐出身の妻と結婚しました。妻の実家は、輸出用梱包資材を製造やタクシール業も営んでおり、35歳の時、家業の興和産業株式会社の継ぐために帰郷。14年前から、社長を務めています。

地元でタクシール業を営んでいることもあって、観光振興にも携わるようになり、平成20年に須佐観光協会の会長に就任しました。

絶景と食で観光客が増加

須佐では、近年、「須佐湾遊覧船」と「須佐男命(みこと)いか」の人氣が高く、ツアー客をはじめ、多くの観光客が訪れています。

須佐湾遊覧船は、大型連休や夏休み期間を中心に、4年前から本格運行を始め、「ホルンフェルス」や「屏風岩」など、国の名勝・天然記念物に指定されている須佐湾を周遊しています。漁師が操縦するイカ釣り漁船に乗り込み、海上からしか見ることができない絶景を楽しめることから、年々、利用客が増加し、昨年は3273人のお客様にご乗船いただきました。萩市では、日本ジオパーク認定を目指して取り組みを進めています。須佐湾は地質学の宝庫であり、今後は、楽しみながら学ぶこともできる「ジオクルージング」の要素も取り入れ、更なる集客を目指していくつもりです。

また、須佐男命いかは、地元の漁師と飲食店が連携し、活イカ料理を提供。透明な活きたイカを食べられることから、都市部の観光客を中心に喜ばれており、活イカを目的に年間2万人の方たちが須佐を訪れるほどの人氣です。いずれも、都会では得られない感動を味わうことができ、須佐の観光振興に大きな相乗効果をもたらしています。

任意団体から法人化へ

須佐観光協会は、昭和20年代に発足して以来、任意団体として須佐地域の観光振興に努めてきました。しかし、最近では、遊覧船や男命いかを求めて訪れるツアー客が増加。今後更なる集客を図っていくためにも、社会的な信用が得られ、組織としての責任も明確化できるよう法人化することとなり、平成28年1月、一般社団法人須佐おもてなし協会を設立しました。

「おもてなし」を追求する

素晴らしい名所や特産品は、この観光地にもありますが、「おもてなし」にはさまざまなものがあります。例えば、遊覧船の案内は、協会のボランティアガイドが行っていますが、マニュアルはあつてないようなもので、案内の仕方は人それぞれです。客層や反応によって語り口を変えたり、歌を歌ってみたり。それもやはり、お客様に楽しんでいただきたいという「おもてなし」の一つの形です。これは、追求しても尽きることはないテーマであり、その気持ちを大切にしていきたいと思っています。それは、観光客だけでなく、地域住民に対しても同じです。

将来的には、JR須佐駅で運営している「ふれあいステーション須佐」の規模を拡張し、旬の野菜

や水産物などを販売したり、公共交通機関を利用する高齢者が休憩できるような喫茶スペースを設けたりすることで、観光客や住民同士が触れ合える憩いの場所も作っていききたいです。須佐は高齢者が多く、夕方になると人通りも少なくなります。せめて、昼間だけでもにぎやかになれば、町も活気づくのではないかと思います。

豪雨災害から3年が経ち、目に見える形での復旧は進んでいますが、今でも、心に辛い想いを抱えている方がおられます。微力ではありますが、地域の盛り上げ隊として、喜んでいただけることは何でもする。そんな「おもてなし」の心を持って、これからも頑張っていきたいです。

■須佐おもてなし協会事務局(萩市須佐総合事務所産業振興部門)
萩市須佐4570・5
☎08387・6・2219



須佐男命いか

☆「剣先イカの一夜干し」を2名様にプレゼント

「史都萩を愛する会」設立50年

國守進会長 春の叙勲を受章

史都萩を愛する会は、「郷土史および文化財に対する認識を深めるとともに、萩市の文化財ならびにその歴史的環境の愛護・保存に寄与するために」、明治維新100年（1968）を前にした1966年（昭和41）に設立、今年で設立50周年を迎えました。

1989年に一旦休止しますが、市民挙げての保護・保存活動の取り組みが必要という声が高まり、萩開府400年（2004年）を前にした、2001年（平成13）に松田輝夫さん（90歳、椿東）を会長として再出発しました。平成23年5月からは國守進さん（83歳、椿）が会長を務めています。

■史都萩への思いは50年前も今も変わりなく
 会報の創刊号（67年）の巻頭で、林良雄会長（当時）は、設立に当たったの思いを語っています。

「萩市の歴史的遺産は、殆ど全



「史都萩」創刊号（1967年）

く萩市民が意識的に保存に努めて残したのではなく、自然に残ったもので（中略）明治百年を迎えた今日は、あたかも江戸時代の建築の建替え期に当たるものも多く（中略）一つの危機を迎えております。自然的保存はその限界点に達し、今日以後史都の姿を保存しようとするれば、自然的保存から、人為的意識的保存に切り換えなければその目的を達することができないようになったのではないかと考えられます」（抜粋）。

明治維新から100年が経過した50年前、すでに多くの城下町は往時の姿を消しつつあり、「史都萩のたえずまいは、往昔の萩城下住人が造り残してくれた遺産ではありますが（中略）今や貴重な観光資源として脚光を浴びてまいりました」と林会長も記しています。

■誇りによって守られた「まち」
 萩では、明治維新から50年が過ぎた1920年（大正9）頃から、歴史上の出来事や人物が再認識されるようになりました。そして松下村塾や歴史上の人物の旧宅、史跡などが文化財として指定され、保存・保全されるようになりまし

た。これは萩にとり、誇りとすべきものを再発見・共有し、継承する活動といえます。早い時期からの取り組みや、史都萩を愛する会などの活動があったことで、今の萩の町なみが残ったといえるのではないのでしょうか。

萩の歴史研究に貢献 國守進会長が春の叙勲



國守進会長

教育など公共的な職務に長年従事された方に贈られる春の叙勲で、國守進さんが文化財保護・教育研究功勞の分野で瑞宝中綬章を受章されました。

國守さんは、1983年（昭和58）に萩市文化財保護審議会委員に就任、萩市の文化財保護行政の推進に尽力されています。

日本の中世史の研究が専門で、1974年から山口女子大学（現山口県立大学）で教壇に立たれ、2011年には山口県立大学名誉教授に就任。山口市や防府市の文化財保護審議会委員も務めるなど、地域の歴史教育や研究活動に貢献されたことなどが評価されての受章。「これからも地元歴史や文化を大事に掘り下げ、研究して残していく仕事をしたい」と決意を新たにされています。

夏みかんで新商品 「萩れがしい」発売!

地域活性化のために萩の特産品を利用した商品開発を進めているNPO法人萩の夏みかんクリエイトが、夏みかん菓子や夏みかんの花からとった蜂蜜などを詰め合わせた新商品「萩れがしい」を発売しました。理事長は、清水明人さん（70歳、堀内、萩高昭和39年卒）。

商品は、夏みかんの果皮を使った「ほろにがピール」と「ほろにがマーマレード」、夏みかんの白花からとった蜂蜜「萩みつ」の3品セットが3000円。さらに、萩の海水を登り窯で煮詰めて作った「萩の塩」と「萩焼の小物入れ」を加えた5品セットが5500円の2種類です。

ピールは夏みかんのほろ苦さと甘酸っぱさのバランスが絶妙で、マーマレードと蜂蜜は夏みかんのさわやかな風味と香りが楽しめる自慢の逸品が生まれました。

現在は市内の道の駅「萩往還」と今年4月にリニューアルオープンした堀内の「萩夏みかん工房」（萩八景遊覧船のりば向かい）で販売しています。



萩れがしい5品セット（5500円）

また、萩夏みかん工房は、新たに萩産の米と塩にこだわったおにぎり「萩の塩むすび」の販売を始めました。白米と玄米の2種類があり、1個120円。萩ならではの味を是非ご賞味ください。

萩名物の蒸気まんじゅうの屋台を始めて10年になる清水明人さん



問い合わせ

NPO法人萩の夏みかんクリエイト 理事長 清水明人
 (090-7135-4256)

映画「八重子のハミング」 日誌③ 土門拳賞の下瀬信雄さん、 スチールカメラマンとして撮影に参加



下瀬信雄

佐々部監督は、2002年の監督デビュー以来今まで、毎年1本制作、全国公開されている売れっ子監督です。「早撮り」の監督として有名ですが、今回の「八重子のハミング」はセットなし、オーロケ、同時録音で、撮影期間は約2週間。

映画の舞台となる萩市を中心に山口県内のロケが4月17日から30日まで2週間行われました。全日程に参加した萩市瓦町の写真家で、昨年「土門拳賞」を受賞した下瀬信雄さん(71歳)にお聞きしました。

Q 今回のご感想は

下関市出身の佐々部清監督作品は、下関市と韓国釜山を舞台にした青春映画「チルソクの夏」(2003年、上野樹里の映画デビュー作)が、萩のツインシネマで上映されて以来見続けています。角島が舞台の「四日間の奇跡」(2005年)、回天特攻隊を扱った「出口のない海」(2006年)など山口県を舞台にした作品が多く、その佐々部監督から、撮影の写真撮影を手伝ってほしいと声がかかりました。

Q 今回の撮影現場は



椿群生林

萩市内は、金谷神社、藍場川、椿群生林、田床山、葬儀場、火葬場などで撮影。映画は木間小学校での回想シーンから始まります。また、徳山で病院シーン、下関

普通の監督は、1日に1シーン(約3分)程度の撮影と言われますが、今回の佐々部監督は、1日に3シーン(11分程度)というスピード撮影でした。

Q 撮影場所は

萩市内は、金谷神社、藍場川、椿群生林、田床山、葬儀場、火葬場などで撮影。映画は木間小学校での回想シーンから始まります。また、徳山で病院シーン、下関



金谷天満宮

で講演会、北九州市で娘の結婚式のシーンを撮影しました。

Q 撮影での苦労は

スチール写真の撮影は、リハール後、本番前のテスト撮影のみです。萩ロケのスタッフは約30人で、照明、音声マイクなどがフレーム枠に入ってきて、撮影ポイントに苦労しました。

400〜500枚を監督に送りました。映画の方は、現在、編集作業が行われているところです。今年の10月末には山口県内で公開予定、全国公開は来年になります。

Q 印象に残った俳優は

やっぱり高橋洋子さん！還暦を過ぎた年齢で、「八重子のハミング」に主演として、28年ぶりに映画復帰されることに感慨深いものがあります。「サンダカン八番娼館 望郷」(1974年、熊井啓監督)で共演した、下関市出身の田中絹代さんに演技等教えられたと仰ってました。

明治維新150年に向けて 維新劇・創作ミュージカル 「SHOW IN」若き志士たち2016」

来たる8月28日(日)萩市民館大ホールで午後2時〜6時(昼夜2回)、維新劇・創作ミュージカル「SHOW IN〜若き志士たち2016」を上演します。

この舞台の初演は1998年。明治維新130年記念事業として、萩市民劇団・さくら組のメンバーを中心に上演され、旧スカイシネマと萩市民館での公演を合わせて、約2000人が観劇。2009年の再演時には地域文化芸術振興・プラン推進事業(文化庁)・松陰先生150年祭記念事業として、萩市・山口市のほか、翌年には、東京・世田谷公演(区民会館大ホール)を果たし、その後、下関・萩凱旋公演を経て、約5000人の観客を動員しました。

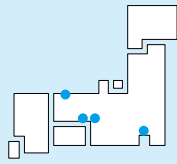
2011年から、メインキャストによって構成された萩SHOW IN隊が、ショートヴァージョンを県内外での観光PRのパートナーとして行ってきました。昨年山口県で開催された「ねんりんピックおいでませ!山口2015」総合閉会式でも、初演より脚本・演出・振付を担当しているREI・KOと音楽の津室ひとみ制作によるメインアトラクション「SHOW IN」のダイジェスト版で幕を下ろしました。

今年、萩・明治維新150年記念事業実行委員会(会長 野村興児萩市長)が主催し、萩市民を中心に新たな出演者も加わり、今後の市の観光振興・パフォーマンスや観光客をおもてなしの心で迎えられるアテンダントの人材育成も兼ねた取り組みが、注目されています。進化し続ける市民参加の地域発信ミュージカルとして、全国的にも他に類を見ない唯一無二のロングランを更新中。今の日本を作り上げた維新の若き志士たちの勇姿と、熱のこもったオリジナルの舞台にぜひご期待ください。

(脚本・演出・振付担当 REI・KO)

■問い合わせ
萩市企画政策課

(08338・253342)



「同窓会・クラス会をいつ、どこで開催します」という情報をお寄せください。萩の資料を送ります。投稿記事も歓迎します。
hagi-network@city.hagi.lg.jp

会員投稿 5月18日 萩観光ホテル(萩市)

萩商工高校商業科 昭和38年卒業同期会



萩商工商業科を卒業後、今年で53年目。久し振りに維新のふるさと萩において同期会を開催しました。当日は、全国から43人が市内のホテルに参集。数十年ぶりに帰郷した同期生も多く、会場内に萩市内の古写真36枚と卒業時の顔写真を展示。高校時代の話とともに時代の流れの速さに対する話題など、大いに盛り上がり花を添えたかな。

翌日は市内観光で世界遺産関係や、新明倫小学校内の萩商工高校「校訓碑」などを同期生の案内で見学、高校の思い出や元気をもらい、参加者一同、次回での再会を誓いました。

幹事 金子吉夫(萩市南古萩町)

会員投稿 4月17日 クルーズクルーズ(東京都・銀座)

指月中8期(昭和30年)卒業生 関東地区在住者の集い



熊本地方で続いている地震災害に気遣いながらでしたが、一中卒の河上時彦さんも加わる12人の参加を得て、今年も関東在住の指月中8期生の集いを銀座で開催しました。

相模原市在住の古屋博士さんの乾杯の発声に始まり、普段の生活を忘れて同じ思い出を語らう楽しい時を過ごし、最後に参加者一同、これからの健康長寿を祈念しつつ来年の再会を約束して別れました。

山口雄三(神奈川県横須賀市)

会員投稿 6月16日 萩小町(越ヶ浜)

小川中9期(昭和31年卒)同窓会



6月16日から2日間、小川中学校卒業60周年(昭和31年卒)を記念して、第9期卒業の同窓会(責任者、尾木満外4人)が開催され、全国から14人参加。会場は、萩市椿東の「夕景の宿・海のゆりかご 萩小町」。全員76歳だが、元気そのもの。

余生を小川、萩市の人口増加の案を考えていこうと、萩ネットワークの最新号を見ながら話が盛り上がり、本年度も再び元気で会うことを確認しました。

幹事 尾木 満(萩市上小川)

会員投稿 6月5日 有馬グランドホテル(神戸市)

萩高21期(昭和44年)卒業生同期会



2年ごとに大阪、京都、神戸をもちまわりで同期会を開いており、今回は神戸担当で、萩からも6人、その他関東からも参加があり34人で開催しました。初めての宿泊同期会でもあり、温泉と料理に堪能し、宴会後も各部屋で萩の話等、夜遅くまで盛り上がりました。

11月には萩で同期会も予定されていますが、2年後は大阪担当で開催を予定しており再会を楽しみにしております。

幹事 長谷川利雄(兵庫県川西市)

ふるさと萩・小川会

5月22日

ホテルラングウッド(東京都・日暮里)



今回で24回、出席者は26人。今年の会場は日暮里駅の近く。初めて小川会の会則を定め、役員改選が行われ、会長には佐伯雅人さんの再任が決まりました。出席した和田副市長から、2年余り前の豪雨災害の復旧・復興の報告がありました。現在、内閣官房に出向中の市職員・三浦慎司(小川出身)も参加。青木副会長の紹介により特別参加の歌手・小川夏生さんと共にカラオケで盛り上がった会となりました。



今年94歳の波田義信さんと歌手の小川さん

会員投稿 6月11日 アンカフェ(東京都・神宮前)

第3回萩っ子パーティー



第3回萩っ子パーティーを東京の青山で盛大に開催しました。会場では90人近い参加者が萩の郷土料理のいところ煮等を楽しんでいただきました。4年振りとなる萩っ子パーティーは、萩大志館が今年設立10周年という節目でもあり感謝の気持ちを込めて主催したものです。

余興では、吉田寅次郎先生にちなんで、「野口とらじろう」さんがパーティーを盛り上げてくれました。また、多くの地元萩からの協賛品による福引きもあり、最後に甘夏を手にとっての記念写真の撮影で締めくくりました。次回は5年後の予定。

吉村光治(千葉県習志野市)

会員だより



井上紀生さん(滋賀県)

萩出身で、毎月萩ネットワークを楽しんでいます。忠小兵衛の御許町店の営業再開、本当になつかしい想いです。商店街の味でしたね。

三牧幸啓さん(東京都)

昨年は、江戸東京博物館での「花燃ゆ」の特別展を見学しました。志士達を支えた女性について、学びたいと考えております。

岩本喜代子さん(岡山県)

5月号(129号)の夏みかんの花の写真に、高校時代、下宿で「庭の夏みかんを食べてもいいよ」と言われた時の嬉しさが、酸っぱさとともに蘇りました。昨年、帰郷の折、宿のロビーで「花燃ゆ」の出演者のサイン入り色紙数枚と出会いました。私にとって、今までで一番印象に残った大河ドラマとなりました。バラバラだった知識が一つに繋がったからです。

つばき会関西支部総会

6月18日

大阪キャッスルホテル(大阪市・天満橋)



今回で6回、出席者は67人。今年は商業、工業高校が統合して10年目。昨年の求人倍率8.2倍を反映して、春の卒業生147人のうち96%が第一志望の会社に就職。そのうち24%の35人が萩市内に就職、と末廣栄校長から報告がありました。

長光肇・副支部長の尽力により、昭和55～57年の卒業生が23人も出席。10回大会までに出席者100人が目標、と締めくくりの言葉でした。

情報アラカルト

東北地区

■岡田裕 作陶展

7月28日(木)～8月2日(火)
山形市幸町2・8
十字屋山形店
(023・641・1151)

関東地区

■萩在京高校同窓会

4年に1度の東京指月会、つばき会関東支部、光塩学院(光友会)の合同同窓会。
10月22日(土) 午後2時30分～
東京都千代田区丸の内(東京駅丸の内北口)
日本工業倶楽部
指月会(090・7264・6954) 三浦
つばき会(03・3373・4020) 野村

■岡田裕 作陶展

7月7日(木)～13日(水)
茨城県水戸市泉町(JR水戸駅)
京成百貨店
(029・231・1111)

■水津和之 陶芸展

7月14日(木)～20日(水)
東京都豊島区西池袋(池袋駅)
東武百貨店池袋店6階工芸サロン
(03・3981・2211)

■特殊音楽祭2016

萩市出身の国内外で活躍する現代音楽の作曲家の山本和智が中心で行う音楽祭。
7月16日(土) 午後2時30分～6時(予定)
一般3000円、学生500円
※完全予約制(7月10日まで)。
※詳しくは、ホームページ(<http://www.kokuchpro.com/event/tokunon2016/>)をご覧ください。

東京都町田市金井町2160
和光大学学生ホール
(メール wako.tokunon@gmail.com)

■東急二子玉川店やまぐちフェア

萩市から、たけなかの夏みかん菓子などが出品されます。
7月21日(木)～27日(水)
東京都世田谷区玉川(東急田園都市線二子玉川駅)
東急百貨店二子玉川店
(03・6805・7111)

■せたがやふるさと区民まつり

萩市から山口萩ビールのチョンマゲビール、忠小兵衛のかまぼこ等が販売されます。
8月6日(土)～7日(日) 午前11時～午後9時
東京都世田谷区上用賀2・1・1
(東急田園都市線桜新町駅から徒歩15分)
JRA馬事公苑

■伊勢丹(浦和店)山口物産展(仮)

忠小兵衛のかまぼこ、てんぷらが出店されます。
8月10日(水)～16日(火)
埼玉県さいたま市浦和区高砂(JR浦和駅西口徒歩1分)
(048・834・1111)

関西地区

■中国地方の器展

岡田泰、金子司、兼田知明、渋谷栄一、玉村信一、止原理恵、中村真一、納富貴、野坂和左、船崎透、松尾優子の作品が展示されます。
9月3日(土)～10月2日(日)
兵庫県伊丹市宮ノ前2・5・28
伊丹市立工芸センター
(072・772・5557)

■線描画家 田村覚志 個展

9月17日(土)～25日(日)
京都市中京区寺町通夷川上ル西側久遠院前町671・1寺町エースビル1F西
Gallery I (ギャラリーアイ)
(075・2000・3955)

※田村覚志(tazaki)の作品は、ニューヨークでもグループ展(Summer Art Exhibition 2016)で展示されます。
8月31日(水)～9月11日(日)
85 Hester St. Grand floor New York, NY 10002 USA
Ashok Jain Gallery

中国地区

■広島指月会

広島地区の萩高同窓会。
7月23日(土) 午後3時～
広島市南区的場(広島駅から徒歩5分)
ホテルセンチュリー21広島
(082・884・0136) 北東

■つばき会広島支部総会

広島地区の萩商工同窓会。
7月9日(土) 午後6時30分～
広島市南区金屋町1・17
ワークピア広島(旧広島労働会館)
(080・6332・1159) 土佐 岡

九州地区

■九州指月会・つばき会九州支部

九州地区の萩高と萩商工の合同同窓会。
9月10日(土) 午前11時～
福岡市博多区博多駅(筑紫口すぐ)
ホテルセントラーザ博多
(093・201・6303) 廣瀬

■LINE線描画 田村覚志 個展

7月23日(土)～31日(日)
福岡県福岡市南区大楠3・14・34
・106
gallery QUONA (クオナ)
(092・406・3147)

萩市関係

■萩高同窓会八八会

萩高指月会の本部総会。今年の引受期は53期(平成13年卒)。

8月8日(月) 午後7時～
萩高校体育館
(0838・22・0076) 井町

■萩光塩学院同窓会本部総会

萩光塩学院小中高の合同総会。
8月10日(水) 午後6時30分～
長門市深川湯本 大谷山荘
(0838・22・0782) 光塩

■下瀬信雄 写真展

萩市在住の写真家で昨年、写真集「結界」で第34回土門拳賞を受賞した下瀬信雄の作品を展示。
6月から1年を通して作品を紹介する受賞記念企画で「結界」の中から選んだ1点を展示。2カ月に1度、作品を替え、合わせて6点を紹介。

萩市唐樋町3・3
萩山口信用金庫萩支店
(0838・22・3111)

■山口県現代工芸美術展

吉賀将夫など山口県在住の現代工芸作家の陶芸などを展示。
6月10日(金)～10月2日(日)
午前9時～午後5時(10月2日は正午まで)
萩市椿東426・1
吉賀大眉記念館
(0838・26・5180)

■世界遺産登録1周年記念シンポジウム

「日本の近代化に果たした萩の役割」というテーマでシンポジウムを開催。加藤康子(内閣官房参与)、田口由香(大島商船高等専

ふるさと情報紙「萩ネットワーク」

萩ネットワーク協会 ☎0838-25-3178

全国のネットワーク会員に、年6回隔月で郵送
発行月 1・3・5・7・9・11月号
(1994年10月創刊)
会費 一般2,000円、特別賛助10,000円
会員数 1,700人

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838-25-1750

7月16日(土)～8月23日(日) 9:00～17:00

◇むつみ昆虫王国 むつみ昆虫王国

7月28日(日) 20:00～

◇須佐湾大花火大会 須佐湾

7月31日(日) 9:30～15:00

◇ひまわりロードフェスタ むつみ・ひまわりロード

8月1日(月)～3日(水)

◇萩夏まつり 住吉神社・吉田町ほか

8月1日(日) 20:00～

◇萩・日本海大花火大会 萩湾、菊ヶ浜周辺

8月13日(土) 19:30～22:00

◇萩・万灯会(迎え火) 大照院

8月13日(土) 19:30～22:00

◇幽玄の世界 金谷天満宮

8月25日(日) 17:00～

◇たまがわ夏まつり 山口県漁協江崎支店前

萩・夏まつり

1日目の菊ヶ浜での花火大会を皮切りに、3日間にわたり連日盛り上がります。2日目は市民総踊り「ヨイショコショ」パレードやよさこいなど多くの市民が参加。3日目は「住吉神輿」、「踊り車」、「のんた大提灯パレード」、山口県無形民俗文化財に指定されている「お船謡」が会場を練り歩きます。



のんた大提灯パレード



萩・日本海大花火大会

日本海の夜空をバックに約7,000発の花火。雨天の場合は4日に延期。

須佐湾大花火会

須佐湾の夜空に約5,000発の豪快な花火。アニソン歌手きただにひろしさんなどのステージイベントも。



ひまわりロード

高佐下の伏馬地区に3haのほ場に咲く10万本のひまわり。むつみ地域の観光シンボルとして維持するため、地元住民による「むつみひまわり咲かせ隊」が発足。

萩博物館だより

☎0838-25-6447

特別展

衝撃!ビッグアニマル大接近

～地球をゆるがす巨大動物たち～

7月15日(土)～9月25日(日)

地球の過去から現代に現われた巨大動物約150種類、標本・剥製・複製・写真など約300点が集結!約3mの絶滅巨大ナマケモノ「パラミロドン」、日本最大級・約5mの剥製の「ホホジロザメ」、尋常ならぬ約30cmもの巨

大ダンゴ虫「ダイオウグソクムシ」など衝撃の展示会です。

■開館時間

9:00～17:00

■観覧料 大人510円、高校・大学生310円、小・中学生100円

◎年中無休(盆期間も開館)

☆萩・世界遺産ビクターセンター学び舎とのお得なセット観覧券もあります。



山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838-24-2400

最初の人間国宝

石黒宗磨のすべて

7月2日(土)～8月28日(日)

陶芸分野で初の重要無形文化財「鉄釉陶器」の保持者(人間国宝)となった石黒宗磨の約20年ぶりの回顧展。石黒は中国、朝鮮、日本のさまざまな陶技を学び、そこからモダニズムと自由な気分にあふれた作品を生み出しました。

本展ではその陶芸124点と書画20点を紹介します。

■観覧料 一般1,000円、70歳以上の方・学生800円、18歳以下無料

■休館日 月曜日(7月11日、8月8日、8月22日は開館)

